

社 会 学

1 構 成 員

	平成11年3月31日現在	平成12年3月31日現在
教授	0人	1人
助教授	1人	0人
助手（うち病院籍）	0人（人）	0人（人）
大学院学生（うち他講座から）	0人（人）	0人（人）
研究生	0人	0人
外国人客員研究員	0人	0人
技官	0人	0人
その他（技術補佐員等）	0人	0人
合計	1人	1人

非常勤講師	1人	2人
-------	----	----

2 教官の異動状況

佐藤弘明（教授）（～H.11.9.30浜松医大助教授，H.11.10.1以降教授）

3 研究業績

	平成10年度	平成11年度
原著論文数（うち邦文のもの）	2編（1編）	0編（編）
そのインパクトファクター合計	0	0
論文形式のプロシーディングズ数	0編	0編
総説数（うち邦文のもの）	0編（編）	0編（編）
そのインパクトファクター合計	0	0
著書数（うち邦文のもの）	0編（編）	0編（編）
症例報告数（うち邦文のもの）	0編（編）	0編（編）
国際学会発表数	1編	0編

(1) 原著論文（当該教室所属の人全部に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 佐藤弘明 (1998) 病気と動物：アフリカ熱帯雨林狩猟採集民Bakaの民俗病因論。
浜松医科大学紀要12：35-55.
2. Sato H (1998) Folk etiology among the Baka, a group of hunter-gatherers in the African rainforest. African Study Monographs, Suppl. 25: 33-46

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の

共同研究)

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

れるもの

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(6) 国際学会発表

- 1. Sato H (1998) The potential of edible wild yams as staple food resources in the African tropical rainforest. 8th International Conference on Hunting and Gathering Societies. October, Osaka.

4 特許等の出願状況

	平成10年度	平成11年度
特許取得数（出願中含む）	0件	0件

〔平成10年度〕

〔平成11年度〕

5 医学研究費取得状況

	平成10年度	平成11年度
文部省科学研究費	0件 (万円)	0件 (万円)
厚生省科学研究費	0件 (万円)	0件 (万円)
他政府機関による研究助成	0件 (万円)	0件 (万円)
財団助成金	0件 (万円)	0件 (万円)
受託研究又は共同研究	0件 (万円)	0件 (万円)
奨学寄附金その他（民間より）	0件 (万円)	0件 (万円)

〔平成10年度〕

- (1) 文部省科学研究費
- (2) 厚生省科学研究費
- (3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究又は共同研究

[平成11年度]

(1) 文部省科学研究費

(2) 厚生省科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究又は共同研究

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

[平成10年度]

[平成11年度]

7 学会活動

	平成10年度	平成11年度
招待講演回数	0件	0件
国際・国内シンポジウム発表数	0件	0件
学会座長回数	0件	1件
学会開催回数	0件	0件
学会役員等回数	0件	0件

[平成10年度]

(1) 学会における特別講演・招待講演

(2) 国際・国内シンポジウム発表

(3) 座長をした学会名

(4) 主催する学会名

(5) 役職についている学会名とその役職

[平成11年度]

- (1) 学会における特別講演・招待講演
- (2) 国際・国内シンポジウム発表
- (3) 座長をした学会名
佐藤弘明 日本アフリカ学会
- (4) 主催する学会名
- (5) 役職についている学会名とその役職

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成10年度	平成11年度
学術雑誌編集数	0件	0件

[平成10年度]

[平成11年度]

9 共同研究の実施状況

	平成10年度	平成11年度
国際共同研究	0件	0件
国内共同研究	0件	0件
学内共同研究	0件	0件

[平成10年度]

- (1) 国際共同研究
- (2) 国内共同研究
- (3) 学内共同研究

[平成11年度]

- (1) 国際共同研究
- (2) 国内共同研究
- (3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成10年度	平成11年度
産学共同研究	0件	0件

〔平成10年度〕

〔平成11年度〕

11 受賞（学会賞等）

〔平成10年度〕

〔平成11年度〕

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. アフリカ熱帯雨林の人口支持力

ヒトは果たして農耕なしに熱帯雨林で生存可能かどうか、また、熱帯雨林を荒廃させることなくどれだけの人間がそこで生存可能か、という課題を検討するために、カメルーン国南部において狩猟採集民Bakaの野外調査にここ十数年従事している。成果としては、平成10年にアフリカ熱帯雨林における野生根茎食物資源の可能性について国際学会で発表した（平成12年に刊行・印刷中）。そこでは、カメルーン南部の熱帯雨林における野生yam各種の分布、資源量が推定され、野生yamの農耕に依存しない狩猟採集生活を支える有力な食物資源としての可能性が示唆された。今後は、yamなどの根茎食物以外の有力食物資源として各種の果実、種実類の分布、資源量について検討するとともに、熱帯雨林における農耕の可能性、その森林への影響等に関する調査にも着手する予定である。

（佐藤弘明）

2. アフリカ熱帯雨林狩猟採集民Bakaの民族医学

1987年以来、コンゴ、カメルーンに住む狩猟採集民Bakaの民俗医学について野外調査を継続してきた。成果は平成10年に病因論について刊行した。そこでは、Bakaの病因論がアフリカに広く見られる精霊、死霊、邪術師などの外部エージェントに重きを置く病因論と一部共通する点がある一方、食物など何らかの形で病因となる実体の体内侵入によって病気が引き起こされると考えるナチュラルスティックな病因論が優勢であることを明らかにした。今後は、疾病論（平成12年に刊行予定）、対処行動、民俗薬学に関して刊行する予定である。

（佐藤弘明）

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

15 新聞、雑誌等による報道